

はねだみらい

第3号

2019年6月発行

発行／編集：羽田みらい開発株式会社



何ができるの、何が起きるのはねだみらい

2020年のまち開きに向け着実に工事が進む羽田空港跡地第1ゾーン整備事業(第一期事業)(以下、本事業)。ここでは先端産業と文化産業が分野を超えて刺激あい、新たな価値創造が生まれるまちづくりを目指している。今回は本事業の具体像を探るべく、先端産業分野として株式会社デンソー(以下、DENSO)、文化産業分野としてZeppホールネットワーク(以下、Zepp)にインタビューを行った。各社の本事業に賭ける思いも、併せてお届けする。

interview



株式会社デンソー

広報渉外部担当次長兼 R&D Tokyo 統括室 麻弘知様

■DENSOの事業内容をお教えてください。
DENSOは車の発電機などの電装品の製造から始まった会社です。現在では自動車のパワートレイン^{※1}、電子、熱、情報分野の様々な部品やシステムを供給しています。また、家庭用ヒート

現在、DENSOではGlobal R&D Tokyo という研究開発拠点の整備を東京エリアで進めています。この拠点は2018年に新設した品川のオフィス、2020年にオープンする

「作る」「試す」だけでなく

「見せる」といった情報発信の拠点としても機能させることが出来ます。それも大きな理由です。



後継車無人システムを活用した自動運転技術のイメージ



株式会社Zeppホールネットワーク

管理部長兼ホール開発事業部チーフプロモーター 新名 宏二郎様

■まず、Zeppの事業内容からお教えいただけますでしょうか。
Zeppは日本で唯一、全国(5都市7カ所)でライブホール運営を行っている会社です。アーティストにも、来場いただくお客様にも利用しやすいホールの提供を目指し、全国各地にあ

(仮称)Zepp Handeda(TOKYO)というライブホールの運営を行う予定です。このホールは、Zepp Tokyo、Zepp DiverCity(TOKYO)の収容人数を超えるZeppホール最大級3000名規模になる予定です。

1999年、お台場にZepp Tokyoをオープンさせた際と同じようなやりがいを感じています。その頃のお台場は、まだ街としては産声を上げたばかり。そんなお台場と成長を共にした今のZepp TokyoはZepp Hallの中でもエースであり四番という存在です。本事業地も2020年に街としての産声を上げる場所。そんな場所を作る(仮称)Zepp Handeda(TOKYO)もZepp Tokyoのように街と共に成長しながら、ゆくゆくは東京を牽引するような賑わいの中心施設

「見せる」といった情報発信の拠点としても機能させることが出来ます。それも大きな理由です。



開業から20周年を迎えたZepp Tokyo

■最後に読者である大田区の皆様へ一言お願いします。
大田区ものづくり企業の皆様と自動運転技術開発等に於いてコラボレーションができること、とても楽しみにしております。

■最後に読者である大田区の皆様へ一言お願いします。
大田区ものづくり企業の皆様と自動運転技術開発等に於いてコラボレーションができること、とても楽しみにしております。

■最後に読者である大田区の皆様へ一言お願いします。
大田区ものづくり企業の皆様と自動運転技術開発等に於いてコラボレーションができること、とても楽しみにしております。

■最後に読者である大田区の皆様へ一言お願いします。
大田区ものづくり企業の皆様と自動運転技術開発等に於いてコラボレーションができること、とても楽しみにしております。

■最後に読者である大田区の皆様へ一言お願いします。
大田区ものづくり企業の皆様と自動運転技術開発等に於いてコラボレーションができること、とても楽しみにしております。

※1：エンジンでつくり出された回転エネルギーを効率よくタイヤに伝える装置全般の事
※2：駅やバス停などの交通拠点から自宅や職場などの最終目的地の間を結ぶ移動手段の事

※本紙の内容は現時点の想定に基づくものであり、今後変更されることがあります。
お問い合わせ先：羽田みらい開発(株) Tel.03-5544-1248 (平日9:00-12:00・13:00-15:00)